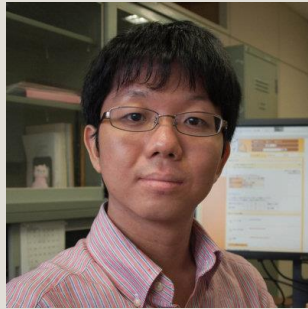


## SCAT研究奨励金を受けて

福島 拓 さん

Taku Fukushima

静岡大学大学院  
工学研究科  
数理システム工学専攻  
助教



<モットー>  
実践躬行

&lt;略歴&gt;

平成22年和歌山大学大学院システム工学研究科システム工学専攻博士前期課程修了。平成25年同専攻博士後期課程修了。現在、静岡大学大学院工学研究科数理システム工学専攻助教。協調作業支援に関する研究に従事。

今回は平成21年度SCAT研究奨励金採用の、福島拓さんをご紹介します。

福島さんは、平成25年3月和歌山大学大学院システム工学研究科博士課程を修了、博士号を取得、現在は静岡大学大学院工学研究科数理システム工学専攻で助教として活躍されています。

## Q. 在学時は何の研究をされていましたか

情報技術を用いた多言語間コミュニケーション支援に関する研究を行ってきました。特に、正確な情報共有を可能にする一技術である、用例対訳を用いた支援に関して研究を行ってきました。用例対訳とは、用例を多言語に翻訳した多言語テキストペアのコーパスです。世界的なグローバル化により、多言語間コミュニケーションの機会が増加していますが、多言語間での正確な情報共有が十分に行われているとは言い難い状況です。この問題は、医療分野や緊急時などにおいて顕著に現れており、解決が求められています。このような場面に適用可能な用例対訳の収集や利用を行うシステムの研究開発を行ってきました。また、共同研究を行ってきた医療NPOを通じて、医療従事者の方へヒアリングを行ったり、開発したシステムを医療機関で試用していただいたりするなど、実環境へ適用可能とすることを重視して研究を進めてきました。

## Q. 研究奨励金を受けて良かったことなどお聞かせください

研究奨励金をいただいたことで、アルバイトを行うことなく、研究に専念できたことが非常にありがたかったです。博士課程在学中はかなりの時間を研究に割いていましたが、金銭面での不安があればこれほど集中して研究活動を行えなかったと考えています。

## Q. 現在の仕事を志望されたきっかけは

私は、和歌山大学大学院システム工学研究科システム工学専攻という、複合的な研究分野を扱う専攻に所属していました。このため、博士課程在学中は自身の研究領域だけでなく、周辺分野の研究領域に触れることができ、広い視点から研究活動を行えるようになったと感じています。現在私が所属している静岡大学大学院工学研究科数理システム工学専攻も、同様な研究分野を扱っていることから志望しました。また、人に何かを教えることが好きなことも、教育活動が可能な大学を志望した理由の一つです。

## Q. 現在の仕事についてお聞かせください

自身の研究としては、情報技術を用いた協調作業支援に関する研究を行っています。特に、博士課程在学中に行ってきた多言語間コミュニケーション支援に関する研究を継続して行っています。また、音声言語処理を専門とする研究室のゼミに参加し、学生へ指導やアドバイスをしています。他には、所属学科の広報の仕事、学科サーバの管理運用業務にも関わっています。後期からは、プログラミングに関する演習授業も担当する予定です。

## Q. 現在の仕事の魅力は何ですか

大学での研究は、自分自身で新たな研究を開拓できる点が魅力だと考えています。このことは、私自身の大きなモチベーションとなっています。また、私の研究分野は実際に人に使ってもらえる情報システムを扱っているため、利用者の方から直接フィードバックをいただきながら研究を進めることも魅力の一つです。

## Q. 現在の仕事で苦労されていることはありますか

大学教員になってからは、私が今まで行ってきた研究とは異なる分野の研究に対しても、指導やコメントを行うことが多くなってきたため、その点は苦労しています。特に、今まで専門ではなかった音声言語処理の研究室のゼミに参加しているため、

議論の内容の理解が難しいことがあります。他分野のことを日々勉強しながら、情報技術応用分野の研究者なりの視点で指導やコメントを行うように努力しています。

**Q. 今、興味もっていることや趣味などお聞かせください**

音声言語処理に関する研究に触れる機会が多くなっていることもあり、音声言語処理技術の活用について興味を持っています。発話による入力、キーボードなどによるテキスト入力よりも簡単であり、子供やお年寄りなど誰もが扱いやすい入力インターフェースとなり得ると考えています。この特長を生かして、今まで行ってきたコミュニケーション支援技術の研究開発をより良いものにしていきたいと考えています。また、博士課程在学中に住んでいた和歌山県や現在住んでいる静岡県は、東海地震や東南海地震、南海地震での被害が予想されている地域であることもあり、情報技術を用いた防災支援や減災支援に関しても興味を持っています。研究以外では、写真を撮ることが好きです。このこともあり、学科パンフレットの写真素材の撮影を担当したり、イベントの写真撮影を担当したりしています。

**Q. 将来の目標についてお聞かせください**

基礎技術の研究の中には、よい内容なのにうまく社会に還元されていないものが多くあると感じています。私の研究分野は情報処理の応用に当たり、実際の社会で使用される情報システムに関して研究を行っています。言い換えると、基礎分野で研究された内容を活用させていただいている立場です。このため、基礎技術の研究を行っている研究者と共同研究を行い、研究開発された情報基礎技術をより良い形で社会に提供し、世の中に還元していくことができるような研究者になりたいと考えています。